

「中津小学校の大敷ばやし伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立中津小学校

2 学年・人数

3・4年生（計5人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年11月12日（金）（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和3年11月13日（土）（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

大敷ばやし（おおしきばやし）

(2) 由来

甌島で行われている定置網（大敷網）のブリ漁大敷網漁は，時代とともに機械化され，人力による漁は，完全に忘れ去られ，歌も聞かれなくなり，消え失せてしまいました。この唄ばやし（作業唄）の生まれは，甌島であるといわれており，大隅・宮崎方面でも唄われていますが，いずれも甌島の漁師から教えられたといわれています。

(3) 構成等

二艘の舷側を表した板に網をかけ，15余人のねじり鉢巻き姿をした男性の乗子が一列にならび，「ヘンーヨイショウ，ヘンーヨイショウ」と声を揃え，全員が網を引く動作を同一になるように行う。女性は，法被を羽織り，調子や歌詞に合わせて勇壮な海の男，魚と戦う様子を踊る。

この作業唄は，しりとり式に唄われ，いつまでも続くように唄われている。

5 保存会や地域との連携の具体

郷土芸能として，平良婦人会が上甌村文化祭で毎年発表し，保存会が結成され，今日に至っている。平良芸能保存会は，上甌町平良自治会の有志の集まりで，例年行われているふるさと総合文化祭で発表している。

本校の音楽発表会を地域のふるさと総合文化祭と共催することで，児童の目に触れるきっかけとなり，地域の伝統芸能であるこの踊りを，ふるさと・コミュニケーション科の郷土を知る学習で児童が学ぶ機会を得た。

今年度は，甌大橋開通記念の際に有志で披露した。また，ふるさと総合文化祭は「新型コロナウイルス感染症対策」のため中止となったため，学校単独の音楽発表会で披露した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

自治会長に相談し，芸能保存会の方々の協力を得て，ビデオを借用することができた。これまでも，学校行事や地域行事でお世話になった方々だったこと

もあり、打合せもスムーズに進み、子供たちも見たことのある踊りだったことから、すぐに活動に入ることができた。実際の大道具は、使わなかったものの、曲や所作を学ぶことから始めた。

今後継続して取り組んでいけるよう、学校応援団の登録もお願いすることができた。

7 発表の様子（学習発表会・11/13）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【教職員】

コロナ感染予防をしながらであったため、普段であれば、外部講師を呼んで「大敷ばやし」を踊る練習をするのだが、ビデオを見ながらの練習になった。その中でも、昨年度踊ったことを思い出しながら精一杯子供たちは踊ることができて良かったです。観覧者の拍手が何より、嬉しく思いました。

【4年生児童】

昨年度のことを思い出しながら、練習を積み重ねていきました。踊りの動きを覚えるのに、大変だったけれど、私なりにうまく踊ることができたといいます。多くの方々が見ているなかで発表ができて良い思い出になりました。

【保存会】

甕島の海をイメージしたこの踊りは、力強い漁師の動きと仲間と息を合わせることで、勇壮な踊りになります。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、子供たちだけの練習となりましたが、私たちも元気をもらいました。